

早期胃癌研究会 2010 年最優秀症例賞は 藤枝市立総合病院消化器科が受賞

早期胃癌研究会では、毎月原則として 5 例の症例が提示され、臨床所見、病理所見ともに毎回詳細な症例検討が行われている。2003 年より、年間に提示された症例の中から最も優れた症例に最優秀症例賞が贈られることになった。

8 回目の表彰となる早期胃癌研究会 2010 年最優秀症例賞は、藤枝市立総合病院消化器科・丸山保彦氏の発表した「透視と内視鏡で特徴的所見が得られた好酸球性食道炎の 1 例」〔早期胃癌研究会症例として、本誌 46 巻 10 号に掲載〕に贈られた。2011 年 9 月 21 日(水)、笹川記念会館で行われた早期胃癌研究会の席上で、その表彰式が行われた。

賞状の贈呈に先立ち、早期胃癌研究会運営幹事会最優秀症例賞選考担当幹事の赤松泰次氏(長野県立須坂病院内視鏡センター)が“この研究会で提示された症例は、その後の運営委員会で検討され、毎月 1 例ずつ優秀症例が選ばれる。その候補症例の中から、運営幹事会にて検討、投票を行った結果、2010 年 2 月の例会で提示された本症例が最優秀症例賞に選ばれた”と選考過程を述べた。

選考の基準としては、“画質、症例の価値、検討内容的確さ、教育的内容であるかを考慮した”と説明した。

続いて、早期胃癌研究会運営委員長の斉藤裕輔氏(市立旭川病院消化器病センター)による賞状と賞金の贈呈が予定されていたが、台風による交通事情の乱れにより出席できなかったため、代理として赤松氏から賞状と賞金の贈呈が行われた。

丸山氏は“このたびは最優秀症例賞をいただき、誠にありがとうございます。選考委員、運営委員の先生方に厚く御礼を申し上げます。私は静岡県藤枝市にある公立病院で勤務しております。しがたがいて、特別な設備や患者さんが集まるわけではありません。現在、消化器の患者さんを中心に受けもっていますが、総合内科の一部や救急直直も担っています。そのなかで、早期胃癌研究会に来るということは非常に大きな励みとなりました。ややもすると、流されがちな日常診療のなかで、緊張感をもってこの会へ出席し、多くの刺激を受けることで、つらいことや忙しいことを跳ね飛ばして頑張ることができたと思います。今回の受賞は、潜在的には多くの罹患者がいると予想されるにもかかわらず、まだ



▲最優秀症例賞を受賞した丸山保彦氏。



▲赤松泰次氏より賞状と賞金の贈呈が行われた。

認知度の低い本疾患をこのタイミングで提示したことをご評価いただけたのだと思います。受賞したことで、やっと早期胃癌研究会の入口に立ったばかりであると意を新たにして、さらに精進を続けたいと思います。われわれの施設のスタッフをはじめ、長い間温かく見守っていただきました渡辺文利先生、花井洋行先生、金子栄蔵教授、そして私をここへ導き、叱咤激励してくださいました前運営委員長の浜田勉先生、皆様にこの場を借りて心より御礼を申し上げます。ありがとうございました”と受賞の挨拶を述べた。

引き続き丸山氏より、受賞症例の解説が行われ、美しい画像を交えた発表が終わると会場内から盛大な拍手が贈られた。